

第8 企業会計決算の状況

県が独立採算性を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に、法律や条例によって設置するもので、地方公営企業法の全部又は一部の適用を受ける公営企業の会計をいいます。

企業会計は、公共の福祉を目的とするとともに、企業の経済性を発揮することも求められており、その経理については、地方公営企業法の定めるところによります。

この会計方式は、一般のいわゆる官公庁会計が現金主義により経理されるのに対し、発生主義に基づく複式簿記により経理される点で大きく異なっています。

三重県では、公共の福祉を増進するため、水道事業、工業用水道事業、電気事業及び病院事業の4事業の経営を行っていますので、以下、それぞれの企業会計ごとに、その決算状況を説明します。

1 水道事業の概況

営業関係では、南勢志摩水道用水供給事業（給水能力138,150 m^3 /日）、及び北中勢水道用水供給事業（北勢系木曾川水系：給水能力80,300 m^3 /日、北勢系三重水系：給水能力51,000 m^3 /日、北勢系長良川水系：給水能力18,000 m^3 /日、中勢系雲出川水系：給水能力81,416 m^3 /日、中勢系長良川水系：給水能力58,800 m^3 /日）の2事業を運営し、平成24年度は県内17市町に対し、延べ76,404,422 m^3 の給水を行いました。

平成24年度の営業成績について、事業収益は9,707,241千円（対前年度比101.5%）で、内訳は、営業収益9,436,343千円（対前年度比100.6%）及び営業外収益270,898千円（対前年度比148.5%）であり、また、事業費用は8,235,776千円（対前年度比81.4%）で、内訳は、営業費用7,095,611千円（対前年度比101.5%）及び営業外費用1,140,165千円（対前年度比99.0%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額1,471,465千円が当年度の純利益となりました。

また、改良事業については、水道水の安定した供給を図るため、施設の耐震化や老朽劣化対策を実施しました。

一方、建設事業は、平成27年4月から大台町への給水（1,700 m^3 /日）を目指して、南勢水道拡張事業（総事業費741,396千円）を実施しています。

平成24年度損益計算書 (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：千円)

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	7,095,611	営業収益	9,436,343
原水及び浄水費	2,140,482	給水収益	9,432,831
配水費	463,742	その他営業収益	3,512
業務費	375,267		
総係費	513,657		
減価償却費	3,490,726		
資産減耗費	111,738		
営業外費用	1,140,165	営業外収益	270,898
支払利息	990,405	受取利息	19,940
受託工事費	131,760	他会計補助金	109,404
雑支出	18,000	受託工事収益	131,760
		雑収益	9,794
当年度費用合計	8,235,776		
当年度純利益	1,471,465		
合 計	9,707,241	合 計	9,707,241

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

平成24年度損益計算書<P/L> (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：千円、% (構成比))

借 方	貸 方
<p>営業費用 7,095,611 (73.1%)</p>	<p>営業収益 9,436,343 (97.2%)</p>
<p>営業外費用 1,140,165 (11.7%)</p>	
<p>当年度純利益 1,471,465 (15.2%)</p>	<p>営業外収益 270,898 (2.8%)</p>

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

貸借対照表<B/S> (平成25年3月31日現在)

(単位: 千円、%(構成比))

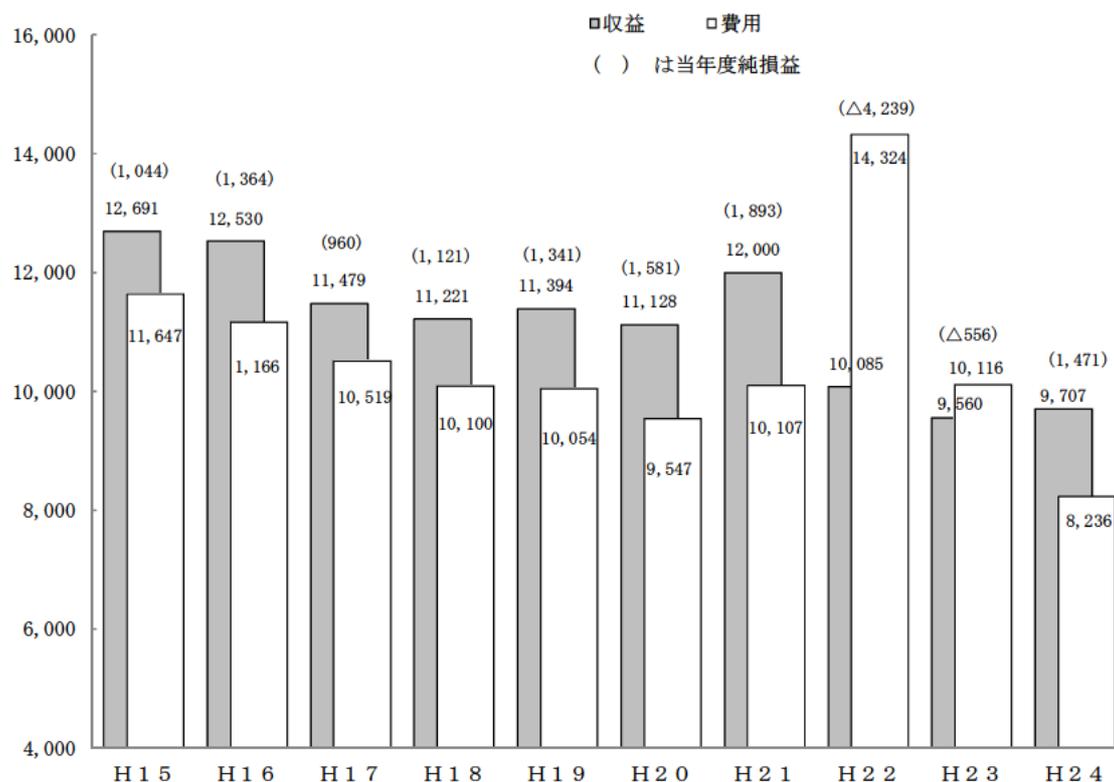
借方	貸方
固定資産 151,414,042(90.9%)	固定負債 6,679,506 (4.0%)
	資本金 114,536,762(68.8%)
流動資産 15,168,939(9.1%)	剰余金 44,598,179 (26.7%)
	資本剰余金 44,625,311
	欠損金 27,132

流動負債
768,534(0.5%)

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移

(百万円)



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

2 工業用水道事業の概況

営業関係では、北伊勢工業用水道事業（契約水量 730,840 m³/日）、多度工業用水道事業（契約水量 10,000 m³/日）、中伊勢工業用水道事業（契約水量 17,810 m³/日）、松阪工業用水道事業（契約水量 38,500 m³/日）の4事業を運営し、県内企業の生産活動における水需要に応えるため、平成24年度においては108工場に対し、延べ214,711,108 m³の工業用水を供給しました。

平成24年度の営業成績について、事業収益は5,975,483千円（対前年度比98.7%）で、内訳は、営業収益5,948,510千円（対前年度比99.4%）及び営業外収益26,974千円（対前年度比74.3%）であり、また、事業費用は4,918,126千円（対前年度比93.0%）で、内訳は、営業費用4,467,696千円（対前年度比93.5%）、営業外費用432,790千円（対前年度比88.6%）及び特別損失17,640千円（対前年度比84.0%）です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額1,057,357千円（対前年度比138.1%）が当年度の純利益となりました。

一方、改良事業については、地震等の災害に備えるとともに工業用水の安定給水を図るため、北伊勢工業用水道等の老朽劣化施設の更新・補強工事など施設改良を計画的に実施しました。

平成24年度損益計算書（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	4,467,696	営業収益	5,948,510
原水及び浄水費	1,430,424	給水収益	5,363,034
配水費	289,749	その他営業収益	585,476
業務費	327,917		
総係費	314,090		
減価償却費	2,041,317		
資産減耗費	64,201		
営業外費用	432,790	営業外収益	26,974
支払利息	431,671	受取利息	17,619
受託工事費	234	他会計補助金	5,300
雑支出	886	受託工事収益	234
特別損失	17,640	雑収益	3,820
その他特別損失	17,640		
当年度費用合計	4,918,126		
当年度純利益	1,057,357		
合 計	5,975,483	合 計	5,975,483

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

平成24年度損益計算書<P/L> (平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(単位：千円、%(構成比))

借方		貸方	
営業費用	4,467,696 (74.8%)	営業収益	5,948,510 (99.5%)
営業外費用	432,790 (7.2%)	営業外収益	26,974 (0.5%)
特別損失	17,640 (0.3%)		
当年度純利益	1,057,357 (17.7%)		

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

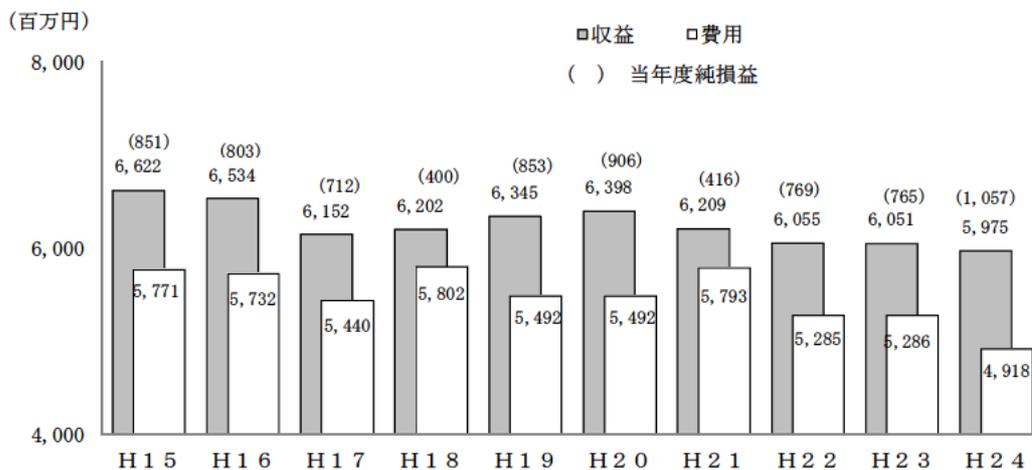
貸借対照表<B/S> (平成25年3月31日現在)

(単位：千円、%(構成比))

借方		貸方	
固定資産	121,271,688 (90.2%)	固定負債	6,747,110 (5.0%)
		資本金	84,727,022 (63.1%)
		剰余金	42,243,169 (31.4%)
流動資産	13,104,050 (9.8%)	流動負債	658,437 (0.5%)
		資本剰余金	41,179,801
		利益剰余金	1,063,368

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)

3 電気事業の概況

営業関係では、水力発電事業については、宮川ダムゲートの被災による影響で宮川第一発電所と宮川第二発電所の発電量が減少したことに伴い、発電量は目標電力量 260,495,000kWh に対し、供給電力量 251,411,995kWh (96.5%) にとどまりました。

RDF 焼却・発電事業については、三重ごみ固形燃料発電所において、製造団体から RDF 47,332 トンを受け入れ、62,273,100 kWh の発電を行いました。

平成 24 年度の営業成績について、事業収益は 3,733,540 千円 (対前年度比 129.5%) で、内訳は、営業収益 2,703,799 千円 (対前年度比 133.9%)、附帯事業収益 989,274 千円 (対前年度比 115.7%) 及び営業外収益 40,467 千円 (対前年度比 435.5%) であり、事業費用は 3,575,579 千円 (対前年度比 108.1%) で、内訳は、営業費用 2,472,448 千円 (対前年度比 114.5%)、附帯事業費用 974,261 千円 (対前年度比 98.0%) 及び営業外費用 128,870 千円 (対前年度比 83.2%) です。

以上の結果、事業収益と事業費用の差額 157,961 千円が当年度の純利益となりました。

平成24年度損益計算書（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
営業費用	2,472,448	営業収益	2,703,799
宮川第一水力発電費	156,124	電力料	2,702,687
宮川第二水力発電費	228,534	その他営業収益	1,112
宮川第三水力発電費	95,491		
長水力発電費	81,663		
三瀬谷水力発電費	585,767		
大杉貯水池費	151,621		
青蓮寺水力発電費	19,546		
大和谷水力発電費	109,740		
蓮水力発電費	275,054		
青田水力発電費	415,800		
比奈知水力発電費	95,157		
一般管理費	257,951		
附帯事業費用	974,261	附帯事業収益	989,274
RDF発電費	974,261	電力料	542,967
		その他附帯事業収益	446,307
営業外費用	128,870	営業外収益	40,467
支払利息	128,653	受取利息	3,943
雑支出	217	他会計補助金	4,990
		雑収益	31,534
費用合計	3,575,579		
当年度純利益	157,961		
合 計	3,733,540	合 計	3,733,540

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

平成24年度損益計算書<P/L>（平成24年4月1日～平成25年3月31日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方	貸 方
営業費用 2,472,448 (66.2%)	営業収益 2,703,799 (72.4%)
附帯事業費用 974,261 (26.1%)	附帯事業収益 989,274 (26.5%)
営業外費用 128,870 (3.5%)	営業外収益 40,467 (1.1%)
当年度純利益 157,961 (4.2%)	

（四捨五入のため、合計が合わない場合があります。）

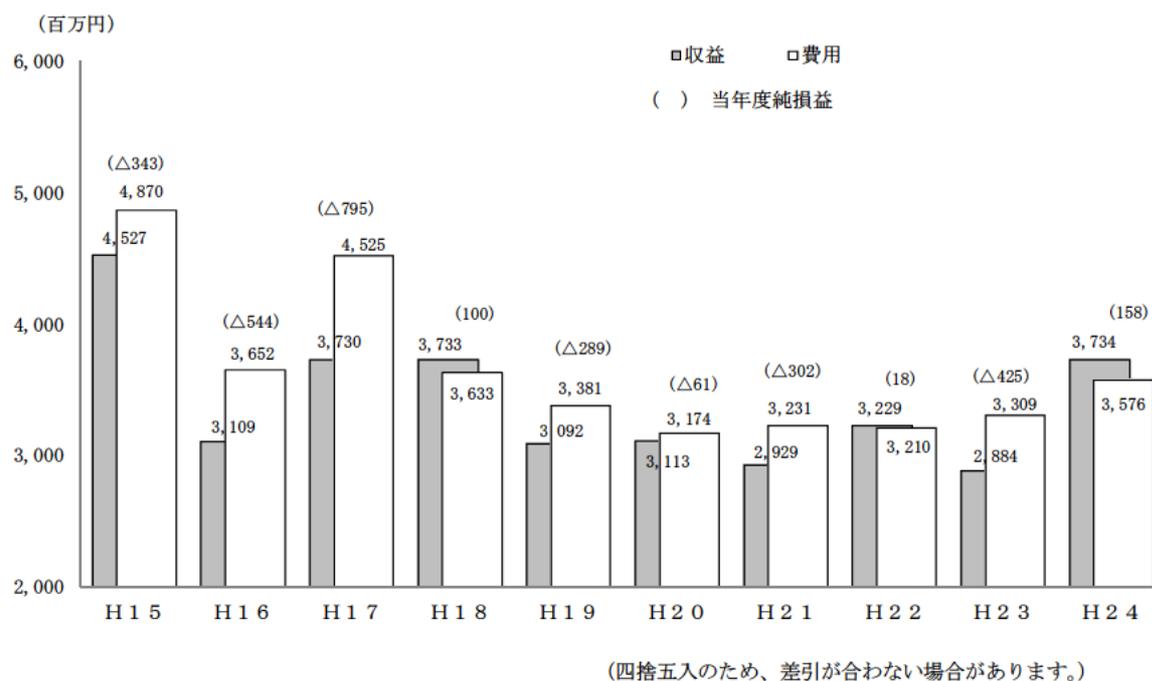
貸借対照表<B/S> (平成 25 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円、%(構成比))

借 方	貸 方
固定資産 14,359,824 (83.4%)	固定負債 568,347 (3.3%)
流動資産 2,857,952 (16.6%)	流動負債 481,990 (2.8%)
	資本金 15,495,485 (90.0%)
	剰余金 671,956 (3.9%) 資本剰余金 3,145,732 欠損金 2,473,776

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



4 病院事業の概況

本県の県立病院は、平成 23 年度まで 4 病院（総合医療センター、こころの医療センター、一志病院、志摩病院）一括での地方公営企業法全部適用の枠組みのもとに、政策医療等の提供に大きな役割を果たしてきましたが、医師・看護師不足など医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、果たすべき役割や機能を十分に発揮できなくなり、収支面においても非常に厳しい状況が続いてきました。また、4 つの県立病院は、機能や規模、抱える課題、さらには立地する地域の医療環境がそれぞれ異なる状況にありました。

このようなことから、県では、病院の運営体制を再構築し今後も健全な経営を継続させることを前提に、各病院が県民の皆さんに良質で満足度の高い医療を安定的かつ継続的に提供することをめざして県立病院改革の検討を進めてきました。その結果、県は平成 22 年 3 月に、4 病院一括での地方公営企業法全部適用の枠組みを外し、病院ごとに改革を進める「県立病院改革に関する基本方針」を策定しました。

県及び病院事業庁では、この基本方針に基づき、平成 24 年 4 月に総合医療センターについては地方独立行政法人に移行し、志摩病院についても指定管理者制度を導入して、それぞれ運営形態を変更しました。

平成 24 年度の病院事業は、こころの医療センター、一志病院そして指定管理者制度を導入した志摩病院の 3 病院での運営となりました。その状況につきましては、総合医療センターの地方独立行政法人への移行に伴い、入院患者数が延べ 203,024 人（1 日平均 556.2 人）、外来患者数が延べ 154,556 人（1 日平均 630.8 人）で、前年度に比べ入院患者数は延べ 111,307 人の減少、外来患者数は延べ 133,904 人の減少となりました。

収益については、総合医療センター及び志摩病院の運営形態変更に伴う医業収益の減少により、経常収益は 5,704,409,338 円となり、前年度に比べ 68.4%減少しました。

また、費用についても、医業費用と医業外費用を合わせた経常費用は前年度に比べ 69.6%減少し、5,803,171,804 円となりました。

その結果、これらを差し引きした経常損益は、98,762,466 円の赤字となりました。なお、特別損失として退職給与引当金 117,675,000 円を計上するなどした結果、純損益は、216,437,466 円の赤字となりました。なお、施設及び設備の整備については、こころの医療センターの外来棟整備の設計委託や、一志病院の空調自動制御機器の更新工事、志摩病院における調剤機器の更新等により総額 109,721,892 円を執行しました。

平成 24 年度損益計算書（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

（単位：千円）

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
医業費用	5,509,797	医業収益	2,880,471
給与費	2,710,519	入院収益	2,266,305
材料費	286,055	外来収益	529,022
経費	1,836,545	その他医業収益	85,145
減価償却費	659,634		
資産減耗費	6,172	医業外収益	2,823,938
研究研修費	10,873	受取利息配当金	3,567
医業外費用	293,374	他会計補助金	191,941
支払利息及び企業債取扱諸費	181,813	補助金	6,600
繰延勘定償却	41,156	負担金・交付金	2,336,218
患者外給食材料費	910	その他医業外収益	285,611
雑損失	69,495		
特別損失	117,675	特別利益	-
		当年度収益合計	5,704,409
		当年度純損失	216,437
合 計	5,920,847	合 計	5,920,847

（四捨五入のため、合計に合わない場合があります。）

損益計算書＜P/L＞（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）

（単位：千円、%（構成比））

借 方	貸 方
医業費用 5,509,797 (93.1%)	医業収益 2,880,471 (48.6%)
	医業外収益 2,823,938 (47.7%)
医業外費用 293,374 (5.0%)	
特別損失 117,675 (2.0%)	当年度純損失 216,437 (3.7%)

（四捨五入のため、合計に合わない場合があります。）

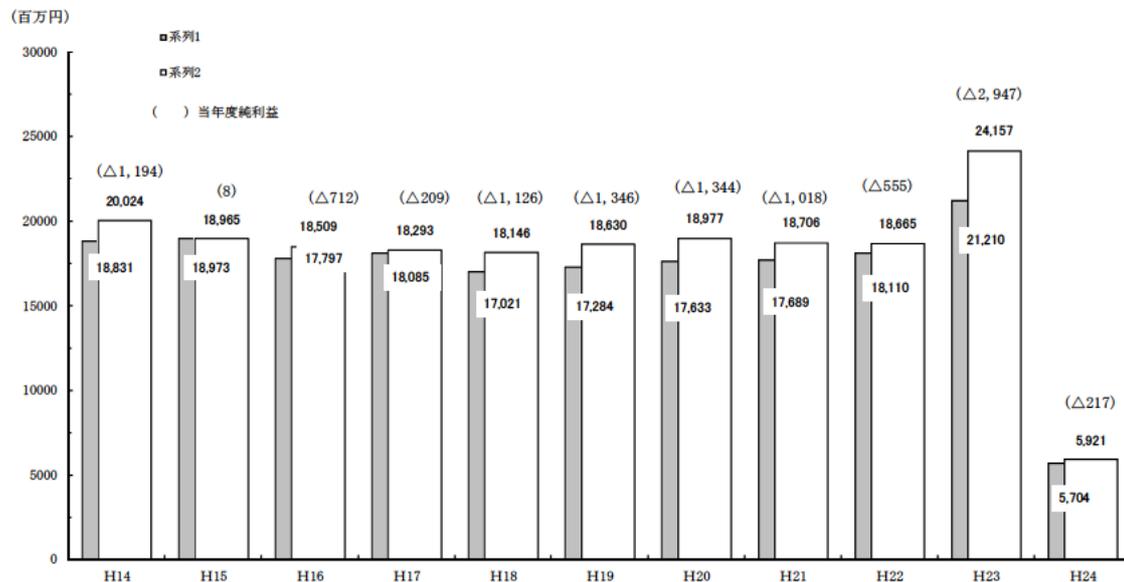
貸借対照表<B/S> (平成 25 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円、%(構成比))

資 産	負債・資本
固定資産 11,560,478 (86.3%)	固定負債 6,288,627 (46.9%)
	流動負債 392,686 (2.9%)
	資本金 11,106,882 (82.9%)
流動資産1,493,612 (11.1%)	剰余金 △4,386,037 (△32.7%)
繰延勘定 348,068 (2.6%)	資本剰余金 4,861,438
	累積欠損金 9,247,475

(四捨五入のため、合計に合わない場合があります。)

年度別の総収益・総費用の推移



(四捨五入のため、差引が合わない場合があります。)